



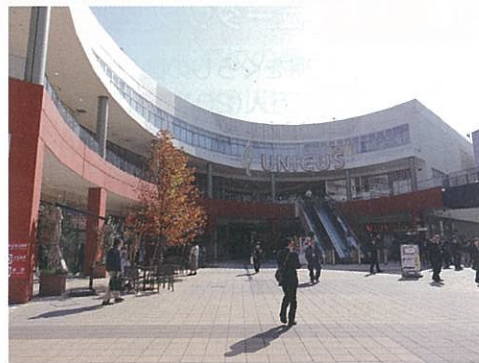
# 先進都市現地調査 ～川越市における公民協働のまちづくり～

群馬県 県土整備部 都市計画課

平成29年11月6日(月)に、埼玉県川越市で群馬県都市計画協会主催の先進都市現地調査を実施しました。

## ■ ウェスタ川越

ウェスタ川越は、埼玉県と川越市が共同で、市の文化芸術の振興や地域住民の活動・交流を促進するための複合拠点として整備し、平成27年に供用開始となりました。この施設は、公共施設(ホール施設・事務所施設・交流広場)と民間にぎわい施設(ユニクス川越)で構成されています。公共施設の利用者数は、平成27年度と平成28年度を比較すると順調に増加しており、地域住民の交流に大いに貢献している様子が伺えます。また、民間にぎわい施設であるユニクス川越は、スーパーマーケット、家電量販店、飲食店、保育園、郵便局などが出店しており、平日にもかかわらず、とても賑わいが感じられ、公共施設と民間施設の複合的な集約整備による相乗効果を実感できました。



民間にぎわい施設と交流広場

## ■ 一番街商店街周辺地区

“蔵の街・川越”をイメージさせる重要伝統的建造物群保存地区の一角にある川越一番街商店街。この地区は江戸時代以来まちの中心でしたが、大正時代にはその南に鉄道駅が開業し、駅周辺に新たな商店街ができたことで衰退してしまいました。こうした流れに危機意識を持った一番街の商店主などが中心となり、市民団体「川越蔵の会」を設立し、商店街の自主協定として「町づくり規範」を制定。川越の都市のあり方に始まり、建物の建て方から看板に至るまで全67項目にわたり分かりやすい言葉で表現した「町づくり規範」は、ルールブックとして「規制」ではなく「望むべき姿」を表していることを特徴としています。そういったことを念頭に置きながら一番街周辺のまち歩きをすると、非常に広範囲の建物が伝統的な町並みに調和しており、特に看板・暖簾が違和感なくとけ込んでいるのが印象に残りました。



伝統的な建物が残る町並み

## ■ まつり会館

まつり会館では、川越まつりに実際に使用されている山車29体が保管・展示されています。江戸時代の下町(日本橋、京橋、神田など)では、山車による祭りが行われていましたが、明治時代の電線等布設により、背の高い物を道路で動かすことが困難となり、次第に神輿が中心の祭りになりました。川越まつりは、そうした江戸時代の祭りの様式を色濃く残し伝える数少ないものの一つとなっています。山車を1体造るのに1億円以上の費用がかかるという説明を受け、当時の人々、また、祭りを今に伝える川越市民の祭りに対する熱意を強く感じられました。



展示ホールに飾られた豪華絢爛な山車

この視察において、川越市では「にぎわい拠点整備」や「歴史的風致を生かしたまちづくり」において、民間と行政が、相互に協力しながら、上手に調和して事業が進んでいる状態を知ることができました。